

Tailored notification encouraging examinees with abnormal glucose levels in health checkups to seek medical care

永渕, 美樹

<https://hdl.handle.net/2324/4784454>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (看護学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名：永瀨 美樹

論 文 名： Tailored notification encouraging examinees with abnormal glucose levels in health checkups to seek medical care

(健診による高血糖指摘者への医療機関受診勧奨の検討)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】

ソーシャルマーケティングアプローチを用いて受診勧奨メッセージを作成し、健診で高血糖指摘後も医療機関未受診の者へ書面による受診勧奨を行い、作成したメッセージの有効性を評価する。

【方法】

高血糖指摘後も医療機関未受診者を対象に、半構造化面接を実施した。面接の結果、対象者は受診意向の有無により2つのセグメントに分類された。また、ソーシャルマーケティングアプローチを使用し、各セグメントに適した受診勧奨用紙を作成した。受診意向があるセグメント1には、医療機関へ容易にアクセスするためのQRコードを記載し、受診意向がないセグメント2へは、受診を先延ばしにすることで生じる時間と経済的な損失を強調したメッセージを記載した。

次に作成した受診勧奨用紙の有効性を評価するために、健診で高血糖指摘後も医療機関未受診である654人に対し、保健師による電話による意向の確認を実施した。受診意向があるグループ1と、受診意向がないグループ2に分類し、それぞれの意向に合わせて今回作成した受診勧奨用紙を郵送した。また受診意向が不明な者はコントロール群とし、従来使用している受診勧奨用紙を送付した。各群の受診勧奨用紙郵送後3か月後の医療機関の受診率の比較を行った。

【結果】

対象者は、介入群として受診意向があるグループ1 (n = 178)、受診意向がないグループ2 (n = 24)、コントロール群は受診意向が不明な者 (n = 452) に分類された。介入群とコントロール群において基本属性に差は認めなかった。グループ1の医療機関受診者の割合 (20.8%) は、コントロール群 (11.1%) よりも有意に高かった。しかし、グループ2の対象者では医療機関を受診した者はいなかった。作成した受診勧奨用紙は、年齢、性別、または血糖値の値に関係なく、医療機関受診に関連する重要な要因であった (オッズ比、1.77; p = 0.02)。

【考察】

ソーシャルマーケティングアプローチを使用して作成した受診勧奨用紙が、高血糖を指摘されている対象者へ医療機関受診を促すことが示唆された。